

# 進路指導室へようこそ 3

前橋女子高校進路指導部

令和7年度 MJ 進路通信 第47号

令和8年1月30日(金)発行

## ■国公立大の出願が始まりました

26日から国公立大学の一般入試の出願が始まっています。出願締め切りは2月4日(水)。それまでに国公立大志願者は出願の手続きをすることになります。Webによる出願が多くなっていますが、郵送の書類については大学によって「必着」のところと「当日消印有効」のところがありますのでしっかり確認しておく必要がありますが、締め切りギリギリになって慌てて用意をすると、思わぬミスが生じるものです。遅くとも今月中には手続きを済ませておきたい。出願は各自で行うもの。ご家族の方をお願いすることが多いと思いますが、すべて親任せでなく、自分で出願の全てを把握しておきましょう。出願にあたっては

- ・出願は前中後期一括で出願します(前期試験の結果を見て後期を出願するものではありません)。
- ・共通テスト成績請求書を必ず貼付または送信の上、書類を提出します(あってはならないことですが、まれに大学から書類の不備の連絡が学校に来ます。最悪の場合、出願が受理されないこともあります)
- ・調査書は「厳封」です。開封すると無効になります。

そして、出願したら、もう迷わないこと。志願倍率等の情報が日々公開されていきますが、ここまできたらそんな情報には目もくれず、一心不乱に勉強するだけです。悩んでいる時間をもったいない、くらいの気持ちで1分1秒を無駄にせずがむしゃらに勉強しましょう。

### 国公立大入試日程

- 前期試験 2/25(水)～ ※合格発表3/1(国立大は3/6)～3/10
- 中期試験 3/8(日)～ ※合格発表3/20～24
- 後期試験 3/12(木)～ ※合格発表3/20～24

3月18日には卒業生合格体験談報告会があります。3年生の皆さんには、ぜひ後輩たちに自分たちの経験を伝えてほしい。その場に立つことも目標の1つにして受験を頑張ってもらいたいと思います。

## ■SSHで学んだことを自分の強みにしよう

24日に行われたSSH公開検討会。体育館では多くのブースで活発な意見交換が行われました。発表した2年生はもちろん、見学した1年生にとっては初めての経験で、緊張もしたと思いますが、刺激を受けたのではないのでしょうか。

SSHに指定されている本校では、研究活動を充実したものにするために様々な支援があり、優れた研究成果を大きな舞台で発表した先輩方もたくさんいます。そして、研究で得た知識や学びの手法を自分の強みとして、目標とする志望校への距離を縮めてきた先輩方も多くいます。

最近では、一般入試のほかにも学校推薦型選抜や総合型



選抜によって進学する生徒が増えてきており、その多くは「授業以外でどんなことを学んできたのか」が入試で問われます。裏面に掲載した質問は、最近の大学入試の面接試験で実際に問われた項目で、多くの大学で探究活動への取り組みを重視していることが分かります。せっかくこのような恵まれた環境にあるのですから、探究活動への取り組みを自分の強みにして、志望校への距離を(学力的な面だけでなく、その研究への強い想いという意味でも)縮めていけるとよいのではないのでしょうか。今回の経験を踏まえ、さらに深い学びへと進んでいく前女生であってほしいと思います。

総合型選抜・学校推薦型選抜の面接試験において、こんな質問が出ました（上の3つは今年度の面接です）

- ・研究において、どんな失敗をして、どう解決したか。企業からはどんなアドバイスをもらったか（2026 群馬大・共同教育・推薦）
- ・高校での研究活動の内容について（2026 岩手大・獣医・推薦）
- ・活動報告書に記載された研究についてよかったことと悪かったこと（2026 東北大・工・AOⅡ）
- ・今まで行った研究について、実験内容、結果を含めて説明してください（東北大・薬・AO）
- ・総合的な探究の時間は、何を行い、何を学びましたか（静岡大・グローバル共創・総合型）
- ・研究活動で得られた教訓は何ですか（筑波大・医・総合型）
- ・研究してきた内容についてポスターを投影しながら説明してください（お茶の水女子大・理・総合型）
- ・探究活動はどのように協力して行ったのか、何が大変だったか（県民健康科学大・看護・推薦）
- ・探究活動の内容について（出題多数）

## ■駿台模試をどのように活かすか ～ただ「難しい」だけの模試で終わらせないために～

先週の進研模試に続き今週末は駿台全国模試が予定されています。進研模試と比べて母集団や問題のレベルがやや高めに設定されていることもあり弱気になってしまう人もいるかもしれません。ですが、この時期に駿台模試を設定している目的は、大学の個別試験に通用する力をつけるため、進研模試の受験だけでは得られない経験をしてもらうことにあります。それは

- ・パッと見て「難しそう!」と感じる問題をどうやって攻略するか
- ・制限時間内で、解くべき問題と後回しにすべき問題をどう見極めるか（優先順位の設定）

です。とくに2つめの「優先順位の設定」というのは、日々の学習においても意識してほしいものです。多くのミッションを抱え、「何から手をつけていいのかわからない」状態をどう回避して1つ1つの課題を順番にクリアしていくか。これは皆さんが大学に進学してから、社会人になって仕事をするようになってからもずっと求められる力です。駿台模試を使って、そのトレーニングをしてほしい、というわけです。高得点が必要な進研模試と違い、半分以下の得点率でも全然心配する必要のない駿台模試は、「その目的がどこにあるのか」を理解していれば、決して気が重い模試ではないのです。

駿台模試偏差値	得点率	目標レベル
75前後	約70%	東大（理Ⅲ）
70前後	約60%	東京科学大（医）・京大（医）
65～67	55～58%	東大・京大
60前後	53～55%	一橋大・東京科学大・旧帝（医）
57～59	48～53%	地方国公立大医学科
55前後	45～50%	旧帝大
50前後	40～42%	千葉・横国・筑波等

## ■「大学入試基礎用語」第10回：2段階選抜って？

大学入試における2段階選抜（いわゆる「足切り」）とは、志願者数が大学の募集定員に対して大幅に上回る場合に、選抜を効率的に進めるために行われる方法です。この制度では、選抜を2つの段階に分け、第1段階で一定の基準を設けて受験者数を絞り込みます。一般的に、この第1段階のことを「足切り」と呼びます。

第1段階選抜では、大学入学共通テストの得点や提出された書類（調査書など）をもとに、志願者を評価します。基準点を設定し、定員の数倍程度の上位者を次の選抜（第2段階）に進ませる仕組みです。この段階で基準点に達しなかった場合、個別試験（二次試験）を受験することができず、不合格となります。つまり、出願しても受験票がもらえないため、勝負の土俵にすらあがることはできません。第2段階選抜では、個別試験の得点や面接、小論文など、大学が定める基準に基づき最終的な合否が決まります。2段階選抜は、特に志願者が多い人気の高い国公立大学や、競争率の高い学部で採用されることが一般的です。

昨年度は、東京大学が第1段階選抜を実施する倍率を理Ⅲ類を除く各類で引き下げ、話題になりました。実際に個別試験に臨める受験生が絞り込まれることで、滑り止めの私大や後期出願校選択の戦略も変わってくるため、他の大学の動向にも影響があります。また、医学部医学科でも第1段階選抜を実施する大学は多くあり、「門前払い」を回避するためにも、慎重に動向を見極める必要があります。